

声を出さなくてもできる 30 分プログラム 新型コロナ対策のプログラム例①

	ワーク名 <ワークの種類>	時間 (分)	グループ サイズ	感染症対策のポイント
1	オープニング → 本書 96 頁	3	全体	・ねらいを紙板書として用意し、最小限の説明ですませられるようにする。
2	ジャンケン チャンピオン <ほぐす> → 本書 98 頁	2	2人組	・声を発しないで行うのであれば、「ポン」のときはアイコンタクトをとるように指示をする。
3	〇〇と言えば <つなぐ> → 本書 110 頁	4	2人組	・声を発しないで行うのであれば、答えをフリップボードに書くなどの対応がある。 ・ハイタッチしないのであれば、アイコンタクトをしながら「エアハイタッチ」をする。
4	サイコロトーク <つくる> → 本書 130 頁	7	2人組	・サイコロを使わず行う。 ・1～6の「好きな〇〇」のお題を書いたワークシートを用意し、自分の回答を書く。 ・ワークシートにはお互いのコメントを書く欄を用意し、相手のワークシートに読んだ感想やメッセージを書くようにする。 ・感想やメッセージを書くのが苦手な生徒がいることが想定されるなら、選択肢にするのも考えられる。
5	今年の漢字 <つくる> → 本書 132 頁	7	2人組	・2人組の交流は省略し、漢字を見せるだけにする。 ・回収し、クラス掲示を行う。
6	いいとこ四面鏡 <伝え合う> → 本書 134 頁	7	2人組	・2人組用の簡易的なワークシートを用意し、形容詞に○をつけ、理由を書く欄を作る。 ・ワークシートを交換して終了する。

実施上の留意点

- ・地域の感染が「レベル3」の場合は基本的に実施できない。「レベル2」以下の場合でも実施可能かを十分に検討し、実施する場合は学校や地域の感染症対策も踏まえること。
- ・部屋は十分な換気を行い、教員も生徒もマスクを付ける。
- ・机と机の間隔を空けたまま、基本的に対面せず顔を少し相手のほうに向けて行う。
- ・ねらいや指示、意識させたいソーシャルスキルをスライドや板書で提示するなど、声を出さなくてもテンポよく進行できるための工夫を講じる。